

【六月の言葉（令和六年）】

善悪は誰にも判断できない

『善悪のふたつ、総じてもつて存知せざるなり』ぞんち（歎異抄）

「何が善で、何が悪なのか、私はまったく知らないのだ」と親鸞はいます。善や悪を完全に知り尽くしている仏様ならばその判断ができるでしょう。しかし、凡夫である私たちには何が真実であるかなど、わかるはずがないのです。

現代の社会では、SNSなどを通じて誰もが自分の意見を発信することができます。それぞれが自分なりの「善」や「正義」をぶつけ合うことで分断を生み出し、争いに発展することも少なくありません。

親鸞は、私たちが行う善は不完全なものであるといいます。

「今行おうとしている行為は、自分の都合が混ざっているのではないか」「人に善を押し付けているのではないか」。

行動の前に一息ついて、自問してみてください。

※SNSインターネット上で社会的ネットワークを構築するサービス

（「くり返し読みたい親鸞」参照）